

研究主題

児童の学びが深まる探究的な学習について

—地域人材を生かした体験活動を通して—



印西市西の原小学校

教諭 湧口 知子

1 研究主題

児童の学びが深まる探究的な学習について

—地域人材を生かした体験活動を通して—（令和6年度実施）

2 主題設定の理由

（1）学習指導要領から

第1目標探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1）探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

（2）実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

（3）探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。（学習指導要領解説総合的な学習編 P. 8）

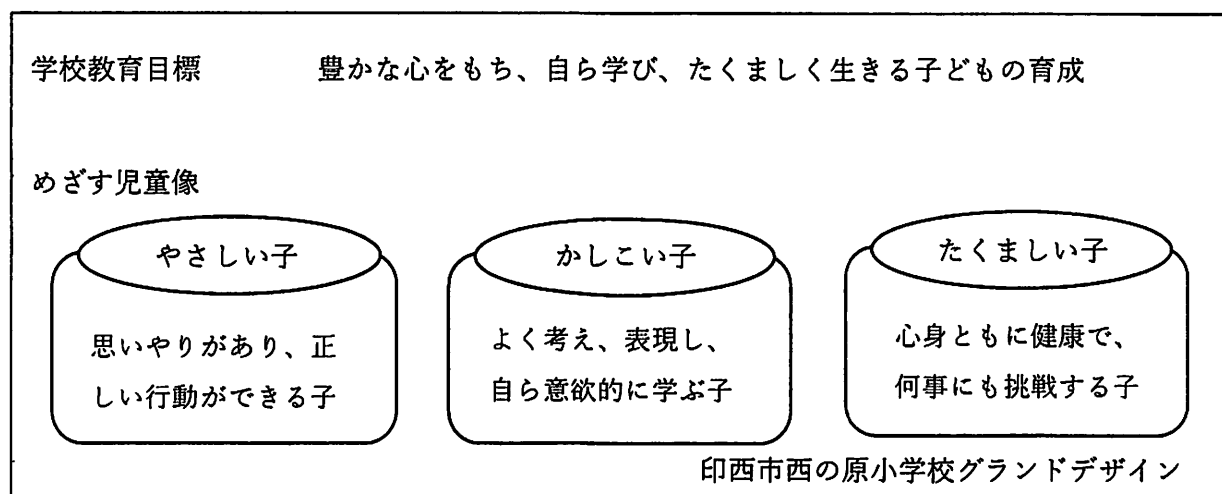
内容及び取り扱いについての配慮事項

（4）自然体験や、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

（5）体験活動については、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえ、探究的な学習の過程に適切に位置付けること。（学習指導要領解説総合的な学習編 P. 55）

以上から、学校や地域の実態に応じた、児童にとって身近な題材を選ぶことで、身近な問題として学習に取り組めると考える。特に、地域人材との交流の機会や体験活動を取り入れる学習を計画することで、探究的な学習のよさに気づき、積極的に地域のことを知りたいと思えるようになると考える。

(2) 学校教育目標から（学校教育目標、総合全体計画）



本校の学校教育目標は『豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成』である。「豊かな心を持ち」とは、相手に対しての感謝の気持ちを考える心の他、物事に対して、自分だけでなく、他者とのつながりによって自分が支えられていると考えることができることだといえる。「自ら学び」とは、与えられた課題だけをこなしていくのではなく、「なぜだろう」「不思議だ」「知りたい」「解決したい」といった知的な探究心を持ち、子どもが自分で考え、判断し、実行する姿勢だといえる。「たくましく生きる」とは、失敗を恐れずに挑戦していく姿勢や、実生活において具体的に行動に移すことである。主体的に話し合い、実践していくことができる力であるといえる。地域人材を生かした体験学習を取り入れることで、地域とのつながりに気付き、学校教育目標である「豊かな心」が育まれ、地域に対しての感謝の気持ちが芽生えたと考える。また、地域の特色や問題を取り上げることで、知的な探究心が生まれ、自ら意欲的に学ぶことができると考える。

(3) 学校や地域の実態から

本校の児童数は643名で、通常学級20クラスと特別支援学級が7クラスである。児童数は年々増加傾向である。本校は市の中央部に位置しており、学区の北側、西の原地区には北総線沿いの新興住宅地と大型商業施設が多く建ち並んでいる。学区の南側、草深地区には古くから残る豊かな自然と土地を生かした畑が広がっている。

ニュータウン開発と首都圏及び成田国際空港への近接性、強固な地盤による安全性という地理的な優位性により、印西牧の原駅周辺を中心として住宅街や企業、大型商業施設の立地が進んでいる。また首都圏内の大消費地に近接する都市近郊農業が強みであり、なかでもメロンやスイカの栽培が盛んで、「パパイヤメロン」や小玉スイカの「マダーボール」などが特産品として認知

されている。このように、開発された都会的な側面と昔ながらの土地が残る両側面がある。

3年生では、社会科で自分たちの住んでいる印西市を学習する。総合的な学習でも地域で働いている方々に直接関わることで、地域の実態や課題がより身近に感じられると考えられ、積極的に探究活動に取り組むことができると考える。

(4) 児童の実態から

住民の多くはニュータウン開発と共に移住してきた世代であり、在籍児童の7割が西の原地区に住んでいる。土地の利便性や住みやすさが注目され、千葉県の住みよさランキングで上位になることも多いが、草深地区に広がる豊かな自然や水源を生かした農業については意識が薄い児童も多い。年度初めに実施したアンケートでは、「自分の家の近くの畑や田んぼで、お仕事している人を見たことがありますか」という問いに対して、約6割の児童が見たことがないと回答した。学区南側の通学路には様々な野菜の畑が広がっており確実に目にしているはずだが、自分たちの身近で農業が行われている実感が少ない実態がある。

本校の児童は与えられた課題に対しては一生懸命取り組む意欲的な様子が見られるが、自分で課題を見つけ、探求していくことに苦手意識をもつ児童が多い。また、実際に畑で作業をするなどの体験が乏しく、本やインターネットなどで得た情報のみで物事を考える傾向にある。

そこで、①地域の方々との関わり合う機会を設ける。②実際に畑などに行き、農業体験や農作物に触れる。この2点を設定することで、より地域の方々のことを身近に感じることで、地域について聞いてみようという意欲につながると考える。また、それによって、もっと地域のことを調べたいと思い、探究的な学習にもつながると考え、本主題を設定した。

地域人材について

- ① 地域の農業の様子を知るために、実際に農家で働いている方々や、地域で育てられた作物を販売しているJAなどと連携し、働いている方から地域を知るという機会を設定した。
- ② 社会問題の解決に携わっている商店や地域ボランティアの方々と交流することで、社会問題を自分たちの身近なところから考えていく機会を設定した。

- ① ②から、学習指導要領の重点目標である、「学びに向かう力・人間性等」の「積極的な社会への参画」にもつながると考え、「自分と地域のつながりに気付く」、という能力の育成を目指していくこととした。

3 研究仮説

研究のねらい

教師が意図的に地域と交流する機会を設定することで、実社会の中にある問いや課題に対して、積極的に探究活動に取り組み、自分と地域のつながりに気付くことができる。

地域人材を生かした体験学習（地域の特色を生かした単元設定）を取り入れれば、地域とのつながりに気付き、気付いたことを教師が価値付けることで児童の学びが深まり、積極的に探究活動に取り組むだろう。

手立て

普段給食などで食べられている野菜が身近に育てられていることに気付かせるために、栄養士さんに話をしてもらおう。JAを見学する。次に、印西産の野菜がどうやって育てられているのか探るために、地元の農家さんのところへインタビューに行き、実際に体験活動をする。

4 実践例 3年生「野菜のヒミツ調査隊！」

（１）単元設定の理由

総合的な学習の時間は自ら課題を決め、情報を収集し、分析し、まとめる、といったスパイラルを繰り返すことで探究的な学びをしていくが、3学年に進級した児童は自ら課題を決めることも、情報を収集する手段もわからない児童がほとんどであった。1学期の初めに行った実態アンケートの分析にもあるように、わからないことがあってもそのままにしたり、自ら調べることはせず身近な大人に聞いて解決したりする児童が多い。また先生や家族以外の地域の大人と話したことがある児童は少ないが、機会があればインタビューをしたり一緒に活動したりすることを楽しみにしている児童が多いこともわかった。このような実態から以下2点の他教科との関連を意識して児童が学習や活動のイメージをもちやすい単元設定を行った。

児童は2年次の生活科で野菜作りの学習を行っている。自分で植物を育てる大変さや得られる達成感などを覚えている児童が多いが、育てる野菜は初めから決まっており、実際の育て方は教師の指示に従って行っていたため、どうすればより大きく美味しく育つかと意識しながら育てている児童は少なかったように感じた。

3年次の社会科では1学期に「学校の周り」「市の様子」を学習し学区探検や市内めぐりに行った。利根川の水源を利用した水田や、広大な土地を利用して栽培される野菜や果物の畑など、

実際に見て歩くことで自分たちの住んでいる地域の新しい魅力を発見したようであった。また「キュウリやトマトの畑が多い」「カボチャが育てられていた」など、どんな野菜が育てられているかに興味をもつ児童が多かった。

以上の教科との関連から「野菜のヒミツ調査隊！」という単元を設定した。一次課題では印西市で採れる野菜を自ら選び、特徴を調べ、まとめていく学習を行った。調べるツールやまとめる方法も児童と共に話し合い、いろいろな選択肢から選ぶことで主体的な学習意欲を高めた。二次課題では一次で調べた野菜は、どのように作られているのかを調べ、その野菜が育てられている現場を見学したり、実際に農業体験の活動も取り入れた。野菜の特徴だけでなく作り手側の気持ちや工夫に目を向け、給食センターの栄養士の方にお話を伺ったり、地域の農家を見学して収穫体験をしたりすることで、より地域の農業を身近に感じ、野菜の魅力を広めたいという意識を高めた。最後のまとめとして野菜ポスターを作成し、学校や地域のJA農協施設で掲示してもらうことで地域とのつながりを感じ、自らの学びが地域社会に還元される喜びを感じられるようにした。

(2) 単元の目標

地域の人々と関わりながら地場野菜を調べることで、印西市を支える第一次産業である農業やそこで働く人々への理解を深めるとともに、野菜の魅力を自ら発信することで地域へのつながりを実感することができる。

(3) 単元の評価規準

評価の単元		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知識 様々な野菜が印西市で育てられていることを理解している。	① 課題の設定 地場野菜をきっかけとして、問いを見だし、印西市で働く人々のよさを探る課題を自らつくり、解決に向けて見通しをもっている。	① 主体性・協働性 友達や地域の方と積極的に関わり、問題を解決しようとしている。
② 技能 インタビューをする際に、相手や場面に応じた適切さで実施している。	② 情報収集 インタビューに向けて、必要とする情報に応じて質問の内容を決めている。	② 自己理解・他者理解 自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。

③探究的な学習のよさ 地域の特徴やよさが分かり、それらが、人々の努力や工夫によって支えられていることに気付いている。	③整理・分析 調べてきた情報を整理したり比較することで、具体的な活動を決定している。 ④まとめ・表現 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	③社会参画 JA や農家の方とのふれ合いを通して、自ら地域の活動に興味をもち、自分にできることを見付けようとする。
--	--	---

(4) 単元計画 (全27時間 第1次7時間 第2次11時間 第3次9時間)

	ねらい・学習活動・手立て	知	思	態	評価方法
課題設定 (1)	一次 【印西で野菜が育てられている？】 ○給食の献立表を見て、印西産の野菜が使われていることを知り、今後の見通しをもつ。 印西市でとれる野菜にはどのようなものがあるだろうか。		①		・発言内容 ・振り返りシート
情・収 (3)	○・JA 農協の施設を見学し、より具体的に印西産の野菜について調べる。  ○インターネットを使って印西産の野菜について調べる。	①			・振り返りシート ・情報活用
整・分 (2)	○わかったことをプリントにまとめる。			①	・振り返りシート

パパイヤメロンを見つけたよ。
印西産の野菜ってこんなにたくさんあるんだね。

ま・表 (1)	○印西産の野菜について分かったことを学級で発表する。		③	・発表 ・振り返りシート
課題設定 (2)	【二次 印西の野菜の魅力発見！！】 ○新たな課題を設定する。 印西産の野菜はどのように育てられているのだろう。 ○二次の単元名を考えよう 印西の野菜の魅力発見！！		②	・発表 ・計画表
情報収集 (7)	○栄養士さんに印西産の野菜がどこで育てられているのか聞く。 		②	・振り返りシート 給食で食べられている野菜を作っている農家さんを紹介してもらいました。 地産地消も考えながら給食作りをしているんだね。

	○農家さんのところへ行き、おいしい野菜の育て方についてインタビューする。  	③ ・振り返りシート すごく大きな大根を収穫させてもらったよ。 パパイヤメロンは、時々日光に当てる部分を変えるなど、農家さんならではの苦勞を知ることができました。
整 分 (2)	○ここまでの学習を整理し、「誰に印西産の野菜の魅力を伝えるか」を話し合う。 ○今後の活動の見通しをもつ。	③ ・計画表
課題設定 (1)	【三次 印西産の野菜の魅力を伝えよう】 ○これからの学習の計画を立てる。調べてきたことを誰に、どのように伝えていくか考える。 印西産の野菜の魅力を伝えよう	③ ・計画表

整・分 (2)	○二次で調べた内容で足りない情報を調べたり取材したりして集め。ポスターを作る。 	③		・ポスター
整・分 (2)	○もっと伝わる内容紹介にするために、作成したものをクラスで発表し、見直す。 ○見直した発表やポスターの修正を行う。	④		・発表 ・ポスター
ま・表 (4)	○2年生に向けた発表会を行う。  ○お世話になったJAにポスターを掲示してもらおう。 ○校内ポスターを掲示し、全校に見てもらおう。	④		・発表 ・ポスター

(5) 成果と課題（アンケート実施と振り返りの感想文の実施）

アンケート集計結果

アンケートの結果から「はい」と回答した割合（％）・・・○１０％以上上昇

	項目	事前	事後
①	自分の家の近くの畑や田んぼで、お仕事している人を見たことがありますか	４３％	○９８％
②	家や学校のまわりでお仕事をしている地いきの人と、話したことがありますか	５３％	○９２％
③	総合のじゅぎょうで、地いきの人からお話を聞いたり、インタビューしたりする活動をしてみたいと思いますか	５０％	○９２％
④	印西市でよく作られている食べ物があることをしていますか	４７％	○９８％
⑤	野菜が大きく育つにはどうすればよいか知っていますか。	２５％	○５８％
⑥	地いきの人からお話を聞いたり、インタビューしたりする活動をしてみたいと思いますか。	５０％	○９２％
⑦	授業で分からないことがあった時、どうしていますか。	友達に聞く ７５％ 本 １９％ そのまま ６％	友達に聞く ８４％ 本 １４％ そのまま ２％

【事前】野菜が大きく育つひみつを書きましょう。

- ・水をあげる。 ・太陽と水。 ・真心込めて作ると美味しくなる。
- ・ひりょうをあげたり水をしっかりあげる

【事後】野菜が大きく育つひみつを書きましょう。

- ・スイカを転がして全部日に当てる。 ・虫に食べられないように畑に薬をまく。
- ・ビニールハウスの中で野菜を育てる。 ・ビニールハウスにミツバチを入れる。
- ・キュウリはたくさん水をあげた方がいいけれど、トマトは水をたくさんあげない方がよい。
- ・栄養がいきわたるように間引きをする。

【全体の感想】

（情意面での向上が見られるもの）

- ・石井さんの畑に行って、野さいやくだ物の育ち方が分かりました。「野さいのひみつ調さたい」の新聞を作った時、ダイコンのいろんなことが分かりました。さらに、スイカのことを調べたいと思いました。
- ・石井さんの畑にいて、「農家さんは、大変なんだなとおもいました。」 野さいの調べ学しゅうで新聞にまとめたりしてたいへんだったけど、いろいろ野さいのことがわかってうれしかったです。もっとそう合でいろいろな事を、してみたいです。
- ・JA や石井さんの畑に行って、いろいろな野 やさいを調べて野さいのよいところやしゅうかくできてうれしかったです。取材して作った新聞もインタビューしたことををいかせてるので、楽しかったです。3、こんどは、自分で、野さいを育ててみたいです。
- ・初めて農家さんの仕事が大変だということを知りました。次に、いろいろ野菜のことを調べて、知りたかった野菜の情報が分かりました。最後に、いろいろな果物のことを調べてみたいです。
- ・いろいろなやさいのおいしさがしりたい。

（新しい発見が見られるもの）

- ・石井さんの畑に行って思った事は、大根をぬくにもけっこう力がないとぬけないんだなと思いました。
- ・野菜を育てるのは簡単じゃないんだな、対策もしないといけないんだなと思いました。
- ・石井さんの畑では大根の収穫やパパイヤメロンの作り方などを教えてもらいました。とくにメロンにわざと傷つけているのには、びっくりでした。神明先生の話では、やさいにはすごくビタミンがあることを教えてもらって野菜は凄いなと思いました。
- ・石井さんの畑に行って、野菜を作るのに、時間がかかって大変だということが分かりました。また、野菜を収穫するには、力も使うから大変だということが分かりました。
- ・僕は、野菜が好きじゃなかったけど、ビタミンが入っていたのがわかったのでいっぱい食べたいです。
- ・野菜の栄養素の食物繊維が、お腹の調子を整えることが、わかった。

（児童の感想を原文のまま記載しております。）

仮説への考察

①意図的に交流する機会を設定した効果について

近くで働く人の存在を知った児童が43%から98%に増加した。また、地域の方々と話したことがある児童が事前の段階では53%であったのに対し、92%に増加した。また、感想から、もっと調べてみたいと興味をもつ児童や、実際に農業体験をしたことでの自分が苦勞したことを書いている児童が見られた。それにより、野菜を育てる苦勞への共感につながったのではないかと考える。

②積極的に探究活動に取り組むことができたかについて

アンケートでは、「地いきの人からお話を聞いたり、インタビューしたりする活動をしてみたいと思いますか。」の問いに対し、事前の50%から92%まで増加した。実際にJAを見学したり、農家さんへ体験に行ったりすることにより、「～を知ることができてうれしかった」「もっと～を調べてみたい」など情意的身長が見られた。

③自分と地域とのつながりに気付くことができたかについて

感想では、農家さんの苦勞を体験したり、実際にインタビューをすることで、「もっとたくさん食べていきたい」と自分にできることを書いている児童が増えた。校内への発表だけでなく、インタ地域に対して自分達ができることを考えさせ、活動させる活動も取り入れるとより地域とのつながりが感じられるのではないかと考える。

研究のまとめ

(1) 研究の成果

- ・地域の農家との交流を通して、野菜が大きく育つことや農家さんの仕事について、深く理解することができた。
- ・学習の振り返り（感想）を見ると、単元を通して、野菜が大きく育つひみつを調べ続けたことにより、「もっと調べたい」「育ててみたい」など情意面の意見が多く挙がった。
- ・地域人材を生かした学習により、野菜の育て方だけではなく、野菜に含まれる栄養素に興味関心をもつ児童が増えて、今後の学習の探究心が芽生えた。

(2) 今後の課題

・野菜が大きく育つひみつを追っていく学習計画を立て、「事前と事後で大きく育つひみつ」が理解できた児童の割合が約2倍向上した。しかし、それでも全体の約60%ほどであるため、さらに秘密について理解できるよう学習内容を考える必要があると感じた。

・実際にインタビューに行ったり、インターネットを活用したりすることを中心に学習を進めてきたため、「疑問や不思議なことに対してどのように解決していくか」事前と事後を振り返ると「本の活用」や「お家の人や先生に聞く」など身近なものや人について調べることに視野が向けられなかった。家庭と連携をとったり、図書の活用をしたりする方法も考えていければよかった。

参考文献：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』 文部科学省

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

【小学校 総合的な学習の時間】』 国立教育政策研究所教育課程センター

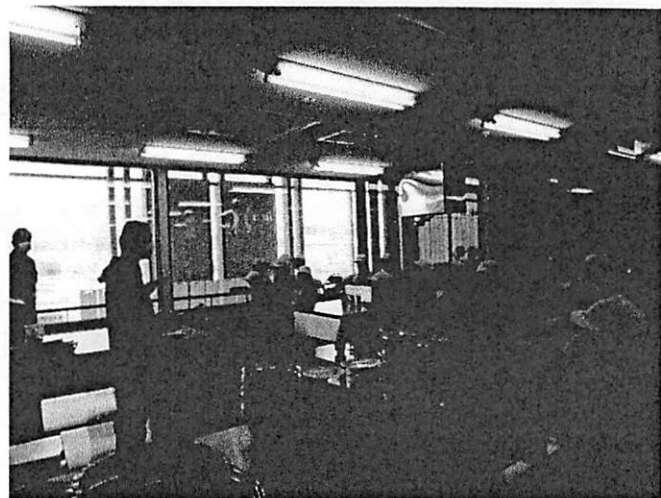
資料編

JA 見学の写真

農家体験の写真

2 年生発表用ポスター

JA 見学の様子



農家さんへの体験の様子

